



性犯罪の罰則に関する検討会 ～犯罪(心理)学からの知恵

大阪大学大学院

もふもふネット

ふじおかじゅんこ



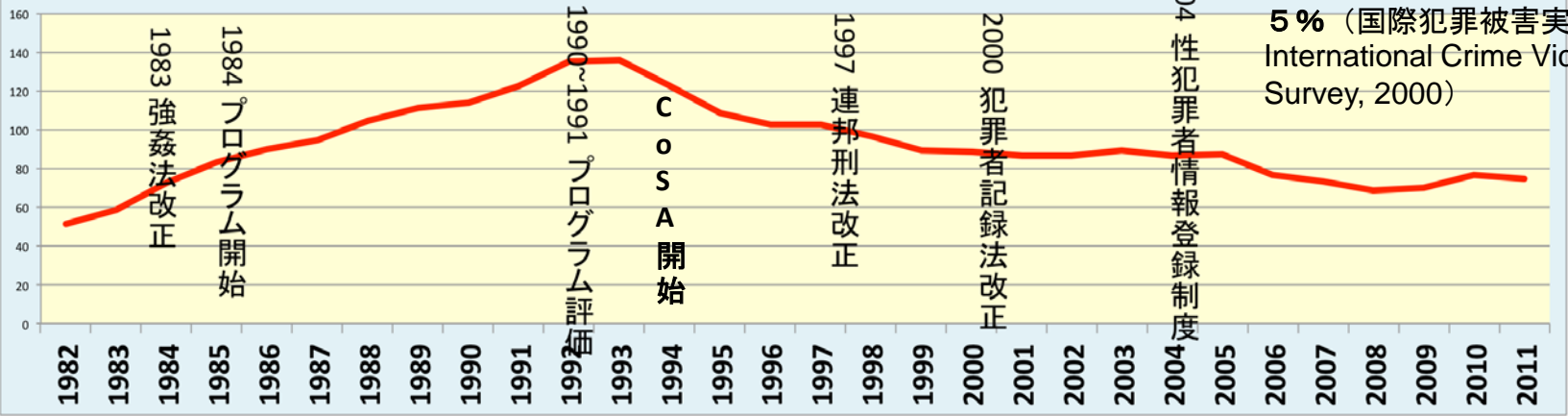
量刑の増加ではなく、
再犯防止に役立つ施策を
とって欲しい。

それには研究の新しい知見が
役立つ。

- 1 データに基づく研究
- 2 離脱研究と社会への再統合

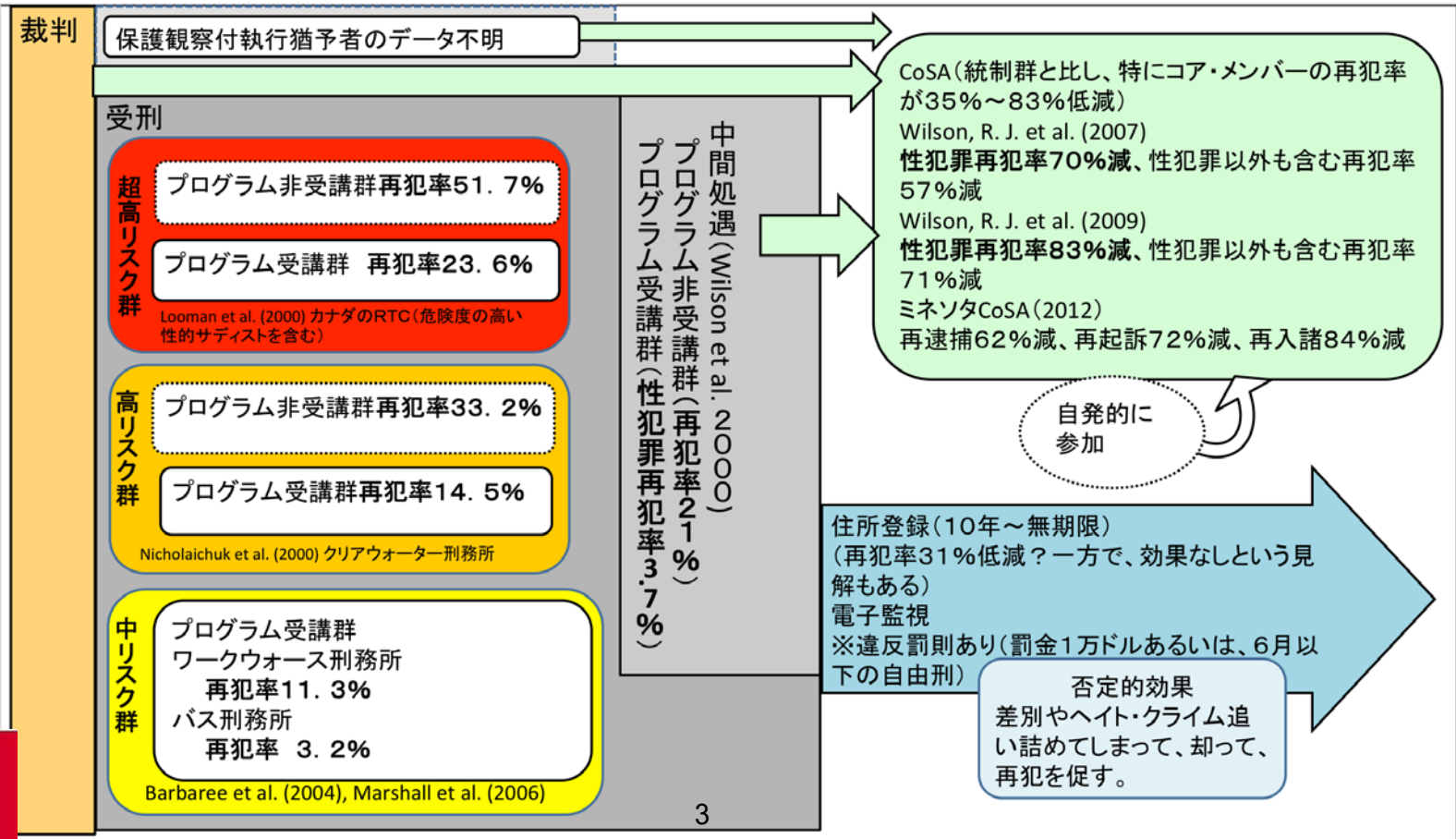
※カナダの被害申告率：18.5% (国際犯罪被害実態調査；International Crime Victimization Survey, 2000)

カナダの性犯罪認知件数の推移(対10万人比)



※sexual assault(level 1, 2, 3)の2007年までの認知件数データはother offencesを算出した。

カナダの処遇および社会復帰システムと再犯抑止効果



奥田剛士(大阪大学大学院、大阪府治安対策課)

作成



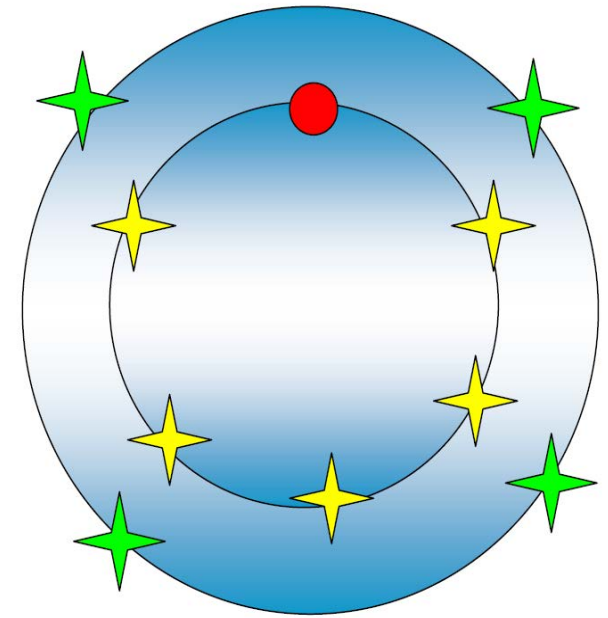
CoSA

Circle of Support and Accountability

* 刑務所を出所した性犯罪者を、市民ボランティアたちが専門家のスーパービジョンを受けつつ、再犯防止と社会への再統合を促す。1994年カナダのクエーカー教徒たちから始まり、イギリスやアメリカに広がっている。

* コア・メンバー（出所した性犯罪者）を市民ボランティアが数人チームになって支援し、コミュニティに迎え入れる。毎日交代で誰かしらが、付き合う。その市民を専門家チームが支え、毎週検討会を行う。

* 累犯者の再犯率を70%低下させた。

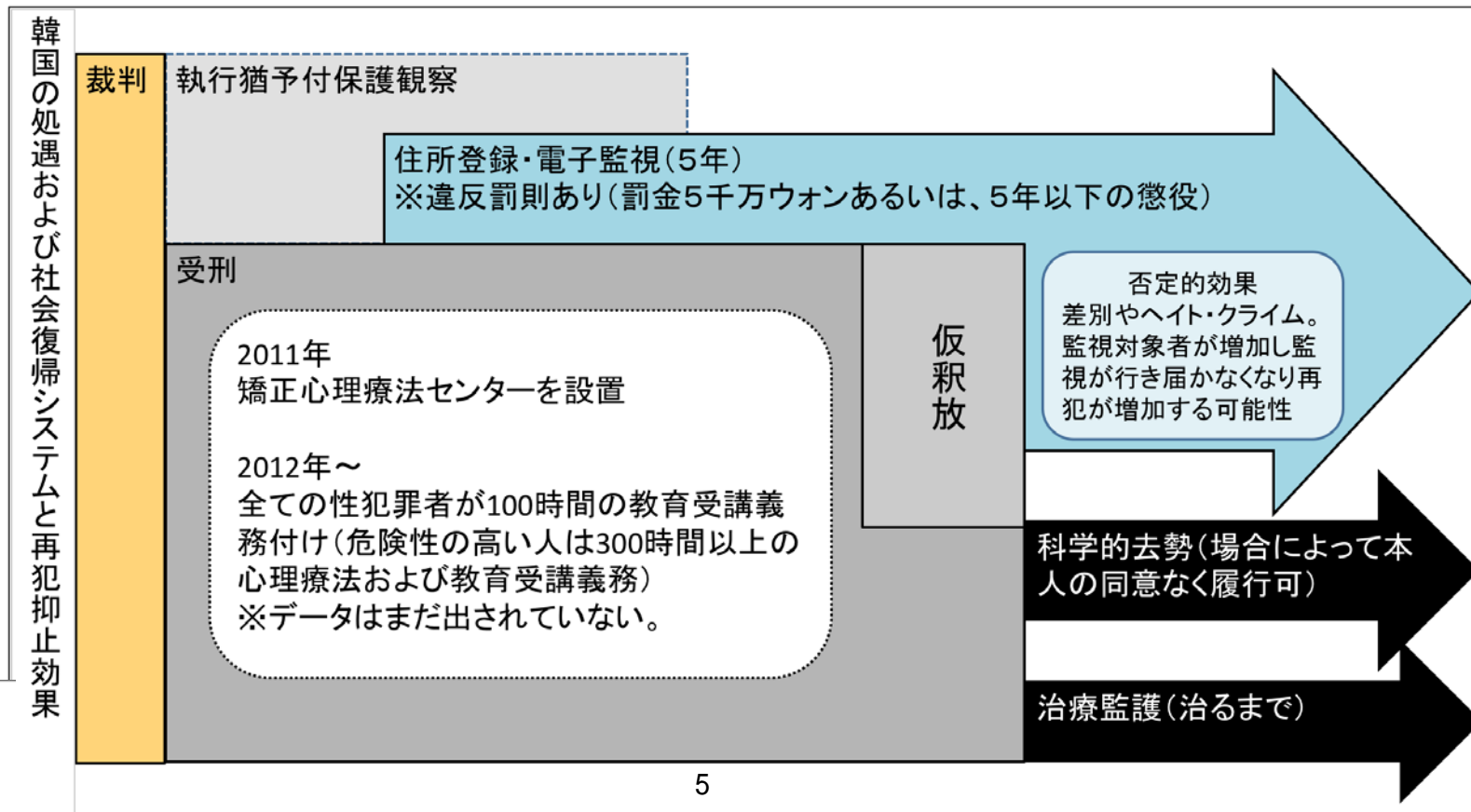
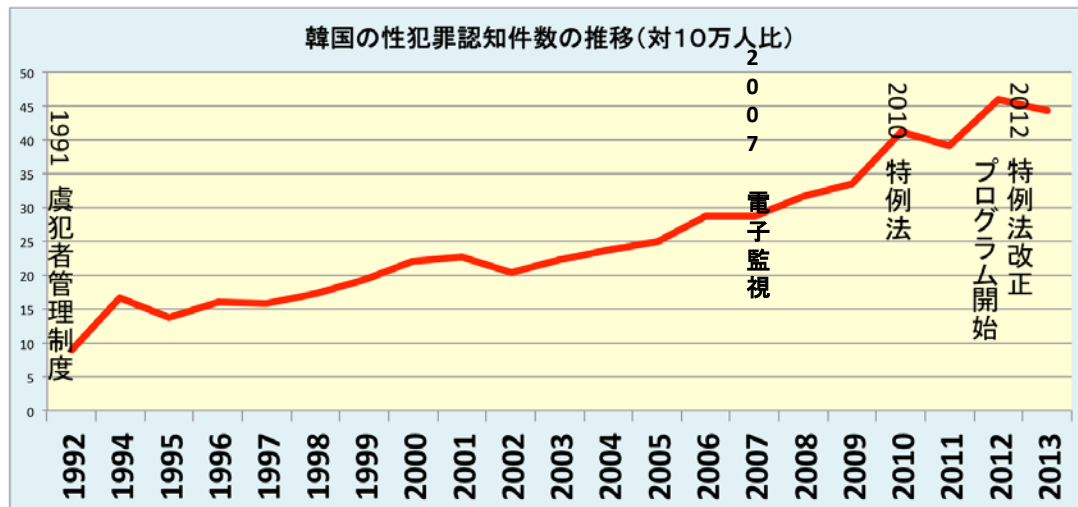


 Core member

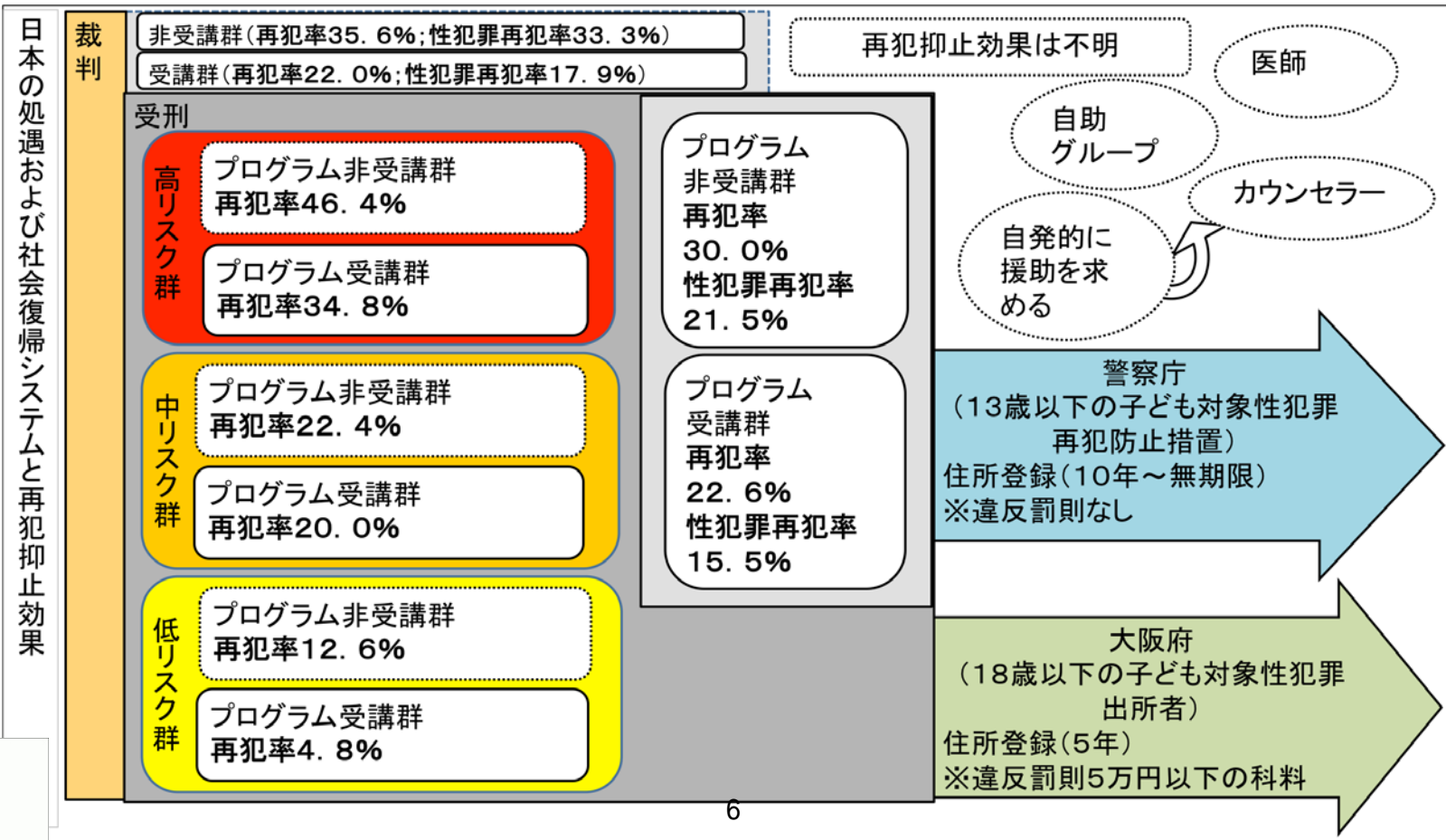
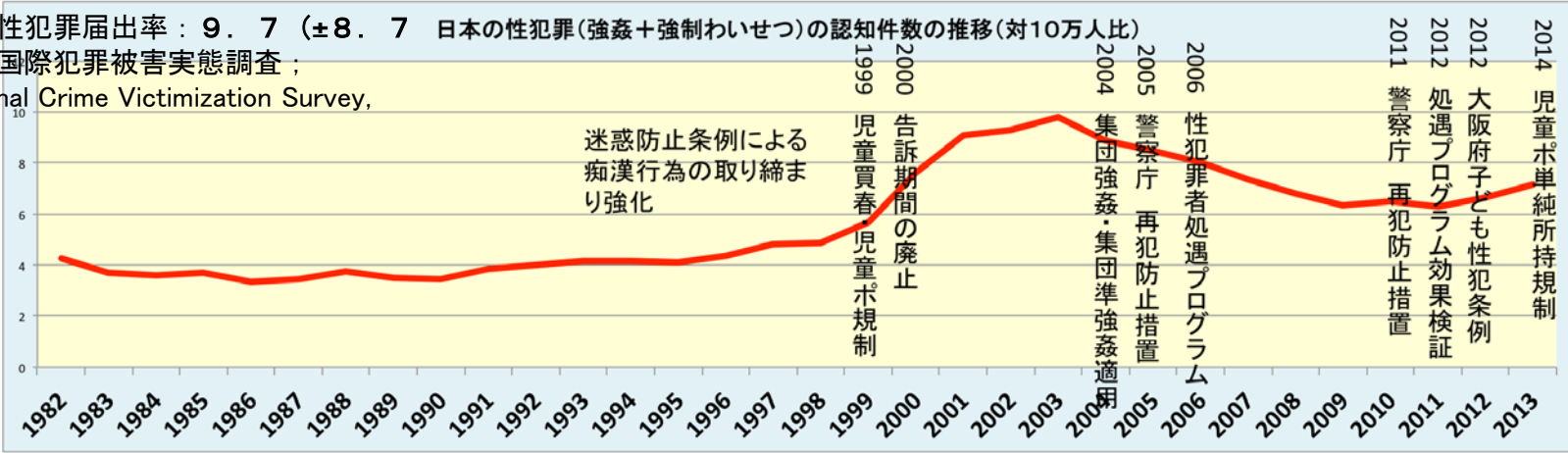
 Volunteers

 Professionals

※韓国の被害申告率：不明



※日本の性犯罪届出率：9.7 (±8.7 日本での性犯罪(強姦+強制わいせつ)の認知件数の推移(対10万人比)
 6) % (国際犯罪被害実態調査；
 International Crime Victimization Survey,
 2000)



奥田剛士 (大阪大学大学院、大阪府治安対策課) 作成



EVIDENCE-BASED ADULT CORRECTIONS PROGRAMS:**WHAT WORKS AND WHAT DOES NOT[‡]**

ワシントン州報告書

表の読み方の例：刑務所内の5つの認知行動療法プログラムの参加者は、通常の処遇群参加者に比して14.9%再犯率が低下している。

<u>Programs for Sex Offenders</u>		性犯罪者のためのプログラム		
Psychotherapy for sex offenders	性犯罪者に対する精神療法		0.0%	(3)
Cognitive-behavioral treatment in prison	刑務所内CBT		<u>-14.9%</u>	(5)
Cognitive-behavioral treatment for low-risk offenders on probation			<u>-31.2%</u>	(6)
Behavioral therapy for sex offenders	性犯罪者に対する行動療法	低リスク者の保護観察のCBT	0.0%	(2)
<u>Intermediate Sanctions</u>		中間処分		
Intensive supervision: surveillance-oriented programs		集中的監視：監視志向プログラム	0.0%	(24)
Intensive supervision: treatment-oriented programs			<u>-21.9%</u>	(10)
Adult boot camps	成人のブーツキャンプ	集中的監視：処遇志向プログラム	0.0%	(22)
Electronic monitoring	電子監視		0.0%	(12)



厳罰・ただの監視は
再犯率を低下させない。

効果検証した教育プログラム受講
＋社会移行支援
(CoSAなど支援＋監視)
が再犯率を低下させる。

再犯データ公開を望む。

犯罪からの離脱研究

LaubとSampsonのライフコース研究

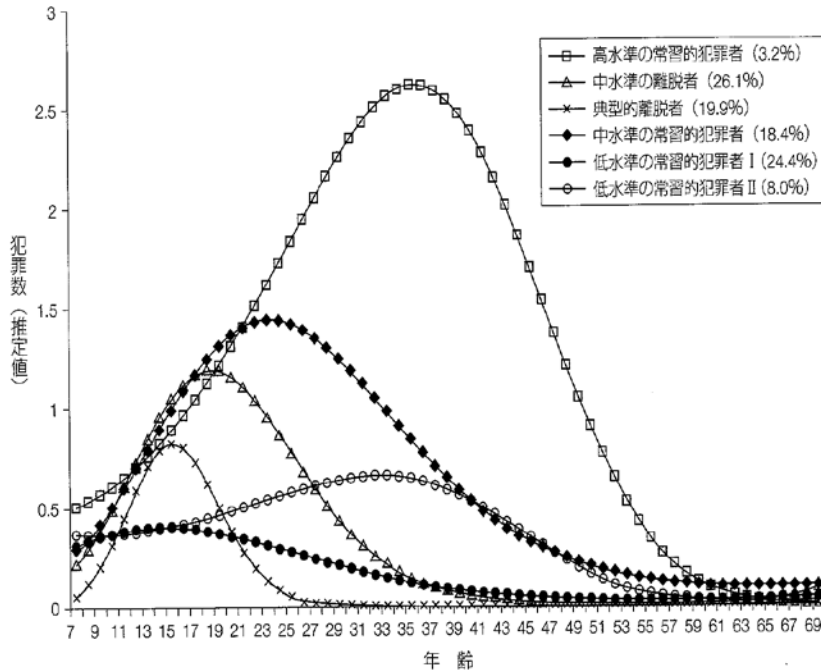


図6.4 全犯罪についての群ごとの軌跡。Laub and Sampson (2003, 104頁) を参考に作成。
SHARED BEGINNINGS, DIVERGENT LIVES: DELINQUENT BOYS TO AGE 70 by Laub, J. H., & Sampson, R. J., p.104.
Cambridge, MA: Harvard University Press, Copyright © 2003 by the President and Fellows of Harvard College.

- * 離脱は普通の出来事。
- * 転機: 犯罪経歴を中断させて人生を再考させる外的要因～結婚、良い仕事等。
- * 社会的絆の重要性
～絆の数が多ければ多いほど離脱が生じやすくなる。

ローズ&ワード (2011) 性犯罪からの離脱～「良き人生モデル」がひらく可能性

犯罪から離脱した人のナラティブ の特徴 (Maruna、2001)

持続的犯罪者と離脱者 (2～3年犯罪していない) のライフストーリーインタビューの比較

持続的犯罪者のナラティブ: 「非難の脚本」～自分を無力で社会の犠牲者とみなしている。

離脱者: 「回復の脚本」～楽観的で、自身の人生にコントロール感を持ち、生産的で社会に還元する。

人としての主体性こそ離脱への鍵となる。

「～だから、こうなった」という話から、「～だからこそ、こうなれた」という話への変化。自助グループなどで、自分の話を繰り返し、新たな自己と物語を獲得していく。

新たな自己アイデンティティの生成

統合的犯罪離脱理論(トニー・ワードら)

犯罪離脱の4段階

- 1 **決意** : 何かきっかけとなって、このまま犯罪者でいいのか？もっと意味ある生き方があるのではないか？と思う。この思いは、サポートやチャンスがあるとかないとかといった外の条件で強化されたり、弱まったりする。
 - 2 **機能回復** (リハビリテーション) : 教育プログラム、職業訓練等
 - 3 **社会再参加** (リエントリー) : 出所から始まる、長く続く過程
 - 4 **普通の暮らし** : リエントリーの延長としてあり、何年、何十年の努力を継続する必要がある。社会的つながりの中での信頼関係の体験が重要。
- 人との良いつながりと、将来への希望が、犯罪からの継続的離脱と社会との融和の鍵となる。

加害者もいろいろだが・・・

- 「それほど反社会的でない」人が起こすとしたら「性犯罪」。
- 男性が「性」と「力」を求めることは社会に認められている。
- 支配-被支配の「性(関係性)」と、安心と喜びをもたらす「性(関係性)」の区別がなかなか難しい。
- 現代社会の在り方、価値観を強く反映しているように思われる。一定あるいは極端に「社会化」されている人たち。
- 「競争」、「力」、「知性」への過度のこだわり。
- 「協力」、「信頼」、「やすらぎ」の経験の乏しさ。
- 「感情」への気づきにくさ、男性としての立たなさ、自分のことでいっぱい、いっぱいの幅の狭さ。
- 性犯罪者は「悪」と見られているが、彼らも普通の人と同じ欲求があるだけ。適切にニーズを満たす力を養成して、性犯罪からの離脱を助ける(Ward グッドライフ・モデル)。



犯罪からの離脱によいもの：
希望と転機、主体性と新たな学び、内
的・外的リソースの強化、社会との絆

刑務所は、離脱によいことのほぼ真逆
それでも一旦は外的に制止することは必要
ただし、転機とさせる工夫が不可欠

そのためには、社会再参加と普通の暮らし
を念頭においた働きかけが大切

虹（希望）の見える場所へ



第1の1 法定刑の見直しについて

- 量刑を長くすることには反対
- 既にかかなり長くなっている
- 長く刑務所に入れていてもいずれ出てくる。
- 刑務所に長く入れておくと、社会再参加ひいては再犯防止がかえって困難になる。
- 最終的には再犯防止と老若男女、被害者加害者を問わず、人々のよりよい暮らしが社会、被害者、加害者の共通の目標と考える。

第1の1以外に関する意見

以下の論点に賛成

- 被害者の性を問わないこと：被害に性差はない。男性の被害も多いし、むしろ被害は複雑。
- 侵入を伴う性交類似行為を強姦罪と同様の刑にすること：侵入を伴うと境界線の侵害が大きく、回復にも困難が大きくなる。
- 暴行・脅迫要件の緩和：「おい」という声かけだけで凍り付く。
- 同意年齢の引き上げ：最低限、義務教育修了後。
- 非親告罪にして、被害者のプライバシーを守る工夫を進める。性犯罪は被害者だけの問題ではない。
- 公訴時効の停止：訴えられるようになるまでに非常に時間がかかるため。

疑義があるのは1点のみ

- 地位・関係性を利用した性的行為に関する規定の創設。
- 卑劣な犯罪であることには間違いないが、加害者の犯罪リスクという点で考えると、被害者と以前から関係がある場合は、多くの場合、関係性を利用できる社会性があり、見知らぬ被害者を襲っている場合より低い。
- 複雑な問題を単純に切ってしまうことの怖さ。
- 個々の事件で、その悪質さを判断することで対応することがよいと考える。